

国際交流に関連した総合的な学習の実践

前ブダペスト日本人学校 教諭

静岡県伊豆市立天城小学校 教諭 松 沼 高 祥

キーワード：世界遺産，国際交流，学校行事

1. はじめに

ハンガリー・ブダペストにおいて、特色があり、この地でしかできない「総合的な学習」を行いたいと考えた。小学部5年生の担任になった派遣2年目に実践した内容を紹介したい。

2. 活動記録

(1) 総合的な学習テーマの設定

現在、わたしが住んでいるところからは富士山が見える。2013年、派遣期間中に「富士山が世界遺産に登録された」というニュースは大変嬉しいものであった。

さて、ハンガリーには8つの世界遺産がある。日本人学校のあるブダペストも多くの地域が世界遺産に指定されており、世界遺産を身近に感じることができる。また、学校行事である『ドナウ祭』（文化祭）の中で小学部高学年が開校以来披露してきた、「ハンガリーダンス」が2011年、無形文化遺産に登録された。そこで、「世界遺産」を大きなテーマとし、ハンガリーの世界遺産や日本の世界遺産を調べ学習とすること。さらに、ハンガリーダンスを体験することによって、国際交流を深めることを目標として取り組みたいと考えた。

(2) 活動の流れ

① 1学期の実践

子どもたちは元々「世界遺産」に興味があり、「調べてみたい」と、とても意欲的だった。子どもたちの個別テーマは、ハンガリーの世界遺産を詳しく調べたりハンガリーと日本の世界遺産を比較したりと様々であった。情報収集は、主にインターネットと図書室の資料を使った。

情報リテラシーでは、自分の得たい情報を検索する方法（キーワードの入れ方）を最初に指導した。多くの情報が手に入るが、自分の必要な情報をそこから取り出すことやインターネットにアップされている内容が必ずしも正しいとはいえないこと、さらに、コピー&ペーストはせずに、得た情報を基に自分の文章で書くこと等を指導していった。

また、最終的なまとめ方を4種類紹介した。①模造紙のような大きな用紙にまとめる方法 ②パソコンで新聞にまとめる方法 ③紙芝居風にまとめる方法 ④プレゼンテーションソフトでまとめる方法の4つである。

子どもたちへの指導とは別に、2学期からハンガリーダンスを始めるにあたり、段取りを整えていく必要があった。まずは講師探しである。昨年度までは日本人の講師が教えてくれていたが、今年度は、都合が悪くなり、別のダンス講師を探すこととなった。現地採用職員の手を借り、日本人学校でも教えてくれるハンガリー人の講師が見つかった。6月頃に一度、来校してもらい、簡単なレッスンの流れや、最終的には文化祭で披露することなどを確認した。その後、講師料等細かい点については、ハンガリー語のできる現地採用職員とメールでのやりとりで確認していった。

② 2学期の実践

2学期に入ると、いよいよハンガリーダンスのレッスンを開始した。講師は、男性1名女性1名のハンガリーダンスを職業としている方々だ。しかし、初回のダンスレッスン当日に講師が来なかったのである。こんなこ

とも海外では想定しなければいけないのかもしれない。大丈夫なのだろうか。そんな不安を抱えながらのスタートであった。

幸い2回目からは、時刻にも遅れずに到着し、レッスンが始まった。今回のハンガリーダンスのダンス構成は全員で踊る部分、男子女子に別れて踊る部分、男女ペアで踊る部分とに分かれている。その中でも男女ペアで踊る部分は、全体構成の半分以上を占めている。5年生男子6名、女子7名。6年生男子4名、女子1名。計男子



ハンガリー人講師によるレッスンの様子

10名、女子8名。男子が2人多い。練習の時には6年担任（女性）と、通訳をお願いした現地採用職員（女性）が男子2人と組んでもらったが、本番でどうするかを悩みながら練習を続けていった。

ハンガリー人講師は、最初の不安を感じさせないとも丁寧で分かりやすい教え方であった。最初の頃のレッスンは、ダンスの時に1（エジ）2（ケットゥ）3（ハーロム）と、ハンガリー語で声をかけていたのに、練習を重ねるに従って、1（いち）2（に）3（さん）と日本語を勉強して使ってくれた。

実は、5年生の子どもたちは、最初、あまりハンガリーダンスに意欲的ではなかった。男女ペアで踊るのは恥ずかしい。そんな思いが先行していたのだ。それに対して、6年生は昨年度体験済みで、ハンガリーダンスの魅力にとりつかれてる。意欲は満々。5年生は、講師の熱心な教え方と、6年生のやる気に引っ張られ、最初の思いを完全に忘れて、夢中になって踊りを覚えていった。そういう6年生も5年生の頃は、あまり前向きではなかったと聞いている。毎年、このような実践を積んでいったのだろう。

われわれ5年、6年の担任は、ダンスの技術的なところが指導できない分、目線を上げることや立ち位置等を確認していった。また、毎回のレッスンをビデオに撮り、踊り方のマニュアルを作成して、次年度につなげていけるようにした。

昨年度のダンス構成よりも複雑になっているのに加え、ハンガリー語の歌を歌う。ハンガリー語の歌を歌うだけでも難しいのに、歌いながら踊るということにチャレンジした。総合的な学習の時間には、ダンスの練習と、ハンガリー語を学習する時間を設けた。ハンガリー語はハンガリー人の非常勤講師に正式な発音や言葉の意味を教えてもらい、歌の指導は、通訳も担当してくれた音楽担当教員をお願いした。このように、たくさんの人に支えられているという感覚を持ちながら、子どもたちのダンスは日に日に上達していった。

講師が教えてくれるのは、全8回さき。その時間を無駄にしないため、子どもたちは自主的な練習を始めた。次に講師が教えてくれるときには、今までのダンスをしっかりと覚えておく必要があった。前回の復習では、先に進まないからだ。休み時間に自分たちで曲を流し、踊り方を友達と確かめていく姿は、楽しみながらも真剣そのものだった。

ハンガリーダンスを披露するドナウ祭まであと少しとなり、衣装等の用意をする必要があった。衣装は子どもたち自身も保護者も、とても楽しみにしているものだ。ハンガリーダンスはその地方によってダンスも衣装も違う。今年は、「マチョー」という地方のダンスで、マチョーの民族衣装は講師が用意してくれた。ただ、ブーツや靴がないためレンタル店で借りる必要があった。これも、現地採用の職員の手を借り、店を探して借りにいったが、足のサイズはまちまち。サイズを測って借りても、合わないことがある。再度借りに行く手間があった。

男子が2人ペアがないという問題は、全体～男女別～ペアに別れる場面で、上手に交代していくことでクリアできていた。また、ドナウ祭のステージ発表では、自分たちの思いを語る時間がある。「大勢の人の前で、

自分の言葉で話す」ことは、当時の研修主題ともつながり、子どもたちにとってとてもよい経験であった。

ドナウ祭当日、子どもたちはそれぞれの思いを胸に本番に臨んだ。



ドナウ祭ステージ発表の様子

ハンガリー文化体験

『マチョーのハンガリアン ダンス』

と題して、子どもたちは一生懸命踊った。

最後の決めのポーズになったとき、会場で見ているハンガリー人の方から大きな声があがった。そして、大拍手。汗だくの子供たちは「やりきった」達成感と満足感にあふれた表情だった。間違いなく今までで最高のダンスを披露した。保護者の方々も感動しておられた。

ドナウ祭当日に最高のモチベーションをもっていけるように、叱咤激励。教えてもらったダンスだが、最終的には「自分たちのダンス」ができるように促していった。この総合的な学習が自分たちのものになった瞬間だった。

③3学期の実践

3学期は、1学期に収集した情報の内容をまとめる作業となった。日本人学校は春休みが長い分、3学期があっという間に過ぎていく。

まとめていく上で、自分が何を伝えたいのかをはっきりさせ、情報の取捨選択を行った。そして、記事を書いていく。資料にある文章をそのまま載せることは厳禁とした。資料の文章から、聞いている人に分かりやすい文章に自分で直すことがとても難しい作業であった。

また、発表原稿を作らせた。発表原稿も同じように自分の言葉で書き進め、発表の準備を整えていった。

総合的な学習の発表会を最後の参観日に設け、保護者の方にも参観してもらった。世界遺産を大きなテーマとして1年間取り組んできたが、総合的な学習で何を学んできたのかを理解してもらったように思う。

3. 成果と課題

(1) 成果

ブダペスト日本人学校のドナウ祭で、小学部高学年がハンガリーダンスを踊ることはほぼ定着しているの、このように総合的な学習の時間として練習時数を確保する方法が1番よいと考えた。世界遺産というつながりから、うまく年間計画を立てて実践できたと思っている。

子どもたちは、「自分が必要とする情報を収集する力」「情報を取捨選択する力」「情報を分かりやすく加工する力」「相手に分かりやすく伝える力」が育ち、また、なにより現地の文化を現地の方から学ぶことによる「現地理解教育」や「国際交流」を深く体験することができた。

子どもたちの感想

- ・このダンスの練習を通して、ハンガリーの文化やみんなで作るものをつかっていくことの大切さを知りました。このハンガリーダンスにたずさわってくださった方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。
- ・おどり終わり、最後に手をふったときは、すごい拍手で、「やりとげた」と思いました。家に帰りお母さんに感想を聞くと「よくがんばったね。」と言いました。わたしはじまんするように「でしょう。」と言いました。
- ・この体験を通して、私はハンガリーのことをもっと知ることができました。今では5年生6年生と一緒に練習

し、ハンガリーの先生方とハンガリーダンスができて、やって良かったと思いました。総合の活動でもいい経験になりました。

- ・あんなにお客さん達が大きな拍手をしてくれたのは、私達の心が1つになり、みんなに一人一人の気持ちが伝わったからだと思います。私にとっては、とてもいいハンガリーダンスをすることができたと思います。そして、成功できたので、とてもうれしかったです。

(2) 課題

ブダペスト日本人学校は現地校内にあるため、練習場所の確保が難しい。年々、体育館の使用割り当てが減り、平成25年度は、1週間に1回しか使えない状態になってしまった。日本人学校内の狭いスペースを使って工夫して練習をするしかない。

4. おわりに

ハンガリーにいる間に、何回もハンガリーダンスを目にする機会があり、見る度にそのかっこよさに目を奪われていた。残念ながら、自身は踊れるようにはならなかったが、子どもたちがあれだけのパフォーマンスができたことの喜びは大きい。

わたしが実践した次年度、彼らが6年生になったとき（平成25年度）にもハンガリーダンスを行った。しかし、大きな問題が起こった。今回お願いした講師が、練習期間中にハンガリー国内にいないことが判明。急遽また講師を探すこととなったのだが、見つからなかった。そこで、6年生が講師となり、5年生に教えるという形をとった。6年生は「教えることができるのだろうか。」という不安があったのだが、いざ始めてみると、去年の自分たちを思い出しながら、上手にアドバイスをする姿がそこにはあった。頼もしくなったものだ。わたしは、少し見学させてもらったのだが、そんな風感じていた。